

【教科名】 基礎化学実験 Experiments Fundamental Chemistry		【学年・学科】 2年・物質化学工学科	
【担当教員】 橋爪 隆生		【単位数・期間】 (必修) 1単位・後期(週2時間)で合計30時間	
【教員室】 7号館 2階		【TEL】 964-7306	
		【e-mail】 hasizume@kct.ac.jp	
【授業目的と概要】 金属イオンの各個反応と系統分析を通じて、無機物質の性質の理解と薬品、器具の取り扱い方を学ばせるとともに実験の仕方、観察の仕方、記録の取り方、報告書の書き方などを学ばせる。			
【授業の進め方及び履修上の注意】(準備する道具や前提となる知識) 実験の内容の説明、実験の実施、実験のまとめを1つのサイクルとして進めていくので、実験に際しては、使用する薬品の性質、器具の性質、取り扱い方をよく理解して危険のないように実施して欲しい。			
授業項目	内容	時間	教育目標との対応
【前期】			(本校) (JABEE)
期末試験			
【後期】			
1. 序論	実験に対する諸注意、実験報告書の書き方。	2	A
2. 実験 1	イオン化傾向(金属樹) 浸透圧	6	A
3. 実験 2、3、4	1、2 属陽イオンの各個反応と系統分析	8	A
4. 実験 5、6、7	3、4 属陽イオンの各個反応と系統分析	8	A
5. 実験 8	炎色反応とホウ砂球反応	2	A
6. 実験 9	中和滴定曲線の作成	2	A
7. 実験のまとめとテスト		2	A
期末試験			
【達成目標】 他人と協力して実験を計画し、正しく安全に実験が行えること 色の変化、沈殿の生成などを観察し、溶液内でどのような反応が起こったかを考察できる 溶液内で起こる反応を化学式で表せる 実験目的、操作、結果、考察などを含む報告書が正しく書け、期限内に提出できること 北九州高专目標：A JABEE 基準 1(1)：対象外		【教科書】 自作実験書 【参考書】) 図書館に有り 定性分析実験 岩崎岩次・共著(培風館) など	
成績 評価	【評価基準】 実験操作が正しく、正確であること。化学反応式が正しく書けること。報告書が正しく書け、内容が十分であり、期限内に提出できること。 【評価方法】 実験(態度 10点、報告書 60点) 試験 30点		【オフィスアワー】 火、木曜 16:00~18:30 土曜 10:00~15:00

